

令和6年2月9日発行 第11号

渋谷の荘だより

「今を生き 未来を担え 渋谷中生」 やまとしりつしづやちゅうがっこう
大和市立渋谷中学校



令和5年度 学校評価について 集計結果より

支援級の豆まき
校長が鬼に変身!

昨年12月に生徒、保護者の皆を対象とした外部アンケート及び本校教員自己評価を実施いたしました。お忙しい中ご協力ありがとうございました。

学校評価とは、本校の教育活動について本校教員が教育活動等の成果を検証し、生徒がより良い教育活動等を楽しめるよう生徒・保護者の方によるアンケート結果を資料として加え、学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準向上を図るものです。

今年度もアンケートの結果をもとに、教育活動全般を検証し、課題解決に向けた取り組みと実践を進めていきたいと考えています。

今後も本校の基本理念である「地域に根ざし、地域の未来を担う学校」「豊かな学びの場の創造」「人権教育と国際教育・支援教育の推進」を大切にした学校経営を進めてまいりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

1 「学校評価」の概要

アンケート項目は、学校の教育理念をもとに「学習意欲が向上する学校」・「地域社会で活躍する学校」・「さわやかな学校」・「安全・安心な学校」を主な柱（項目）として17の設問（生徒は18の設問）で構成し、生徒、保護者、教員の回答を比較できるように同様の設問で行っています。項目（設問）は次の通りです。

- ・「学習意欲が向上する学校」7問（生徒は8問）
- ・「地域社会で活躍する学校」3問
- ・「さわやかな学校」3問
- ・「安全・安心な学校」4問で行いました。



質問項目に対し、

A: そう思う B: ややそう思う C: あまりそう思わない D: まったくそう思わない

の4段階で回答していただきました（判断できない場合は空欄）。

*アンケート回収数：生徒：272人 保護者：178人 教員：24人

2 考察の基本的な考え方

この調査方法では、それぞれ「AとB」の回答を肯定的な捉え方、「CとD」の回答を否定的な捉え方と判断しました。各項目によって考え方も変わりますが、おおむね80%程度達成できているかいないかを境目と考え、それを下回る数値の項目については、来年度、特に改善・工夫をしなければならない項目であると考えています。

3 教員アンケート回答と保護者アンケート・生徒回答との比較と考察

表1は、生徒アンケートと保護者及び教員アンケートの集計結果を比較して並べたものです。各項目別に〔課題〕と〔来年度に向けての方針〕を考察します。

<表1>令和5年度集計結果

項目	質問内容		生徒	保護者	教員
	生徒	保護者			
学習意欲が向上する学校	1	朝読書では、しっかり読書をしていますか。	83	46	86
	2	授業中は、積極的に学習していますか。	86	69	87
	3	学校の授業がわかりますか。	90		
	4	先生は、教え方にいろいろと工夫をし、わかりやすく授業を進めていますか。	91	91	100
	5	家庭学習にきちんと取り組んでいますか。	63	61	82
	6	あなたの努力に、通信簿の評価は合っていると思いますか。	87	85	100
	7	各行事に積極的に参加していますか。	90	94	100
	8	将来の夢や目標を持っていますか。	67	59	90
活躍する地域社会で	9	ボランティア活動に積極的に参加していますか。	75	91	96
	10	学校生活は、地域の方々に支えられていることを理解していますか。	91	87	96
	11	「渋谷の荘」学習(総合的な学習の時間)にしっかり取り組んでいますか。	83	89	85
さわやかな学校	12	気持ちのよいあいさつをしていますか。	85	88	92
	13	校舎や物を大切に、美化活動にしっかり取り組んでいますか。	89	94	96
	14	正しいことばづかいで生活していますか。	81	79	79
安心・安全な学校	15	先生は、「いじめ」などの問題に対し、早期発見と改善に努めてくれていますか。	91	82	100
	16	防災学習や避難訓練に真剣に取り組んでいますか。	93	92	100
	17	学校には信頼でき、相談できる先生がいますか。	83	85	100
	18	学校では楽しく生活していますか。	90	90	100

※数値は、肯定的な「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計の割合です。単位：%



項目1 学習意欲が向上する学校について



【課題1】

全体として肯定的な回答項目が多い結果となりました。特に、3「学校の授業のわかりますか。」では、生徒全体で90%、4「先生は、教え方にいろいろ工夫をし、わかりやすく授業を進めていますか。」では、生徒、保護者、教員の90%以上が肯定的に評価をしています。生徒の前向きな学習姿勢が感じ取れるとともに、その姿勢を教員や保護者が支えた結果であると思われまます。4については、教員の100%が肯定的な回答であり、教員が生徒に適した教材研究を地道に行った成果が、生徒からの評価に繋がったと感じます。

しかし、5の「家庭学習にきちんと取り組んでいますか。」では、生徒と保護者の評価は、教員の評価よりもかなり低い結果となりました。この意識の違いはどこから来ているのか、教員側で確認をする必要があると考えています。

また、7の「各行事に積極的に参加していますか。」についても、生徒、保護者、教員の全てで90%以上が肯定的に評価をしています。コロナ禍で制限されていた昨年度に比べ、今年度は、自分自身の力を発揮して伸び伸びと活躍が出来たからだと感じます。

【来年度に向けて】

「家庭学習にきちんと取り組んでいますか」のポイントの低さは、本校の課題として継続指導が必要です。家庭学習の定着に向けて教員は、家庭と学校での生徒の学習状況の把握と分析を行い、個に適した学習提案など継続的なアドバイスをする必要があります。生徒自らが自主的に学習できるようにいかにアドバイスを行うかが大切となってくると考えます。そして、生徒が学習の成果を認識できるような取り組みも行い、それを評価することで自己肯定感が得られるように導いていきたいと考えます。

また、放課後学習支援や個別学習、少人数指導の取り組みを今後も有効活用し、生徒に学習の大切さや学び喜びを伝えられる支援体制の強化を継続したいと考えます。

そして、生徒自ら自発的に「学習に取り組む」姿勢を高められるよう、学校と家庭で連携しながら、生徒、教員、そして保護者が同じ意識を共有し、学習環境を整えて安定したものにしていく必要があります。

教員は、生徒の地道な日々の学習の取り組みが学習のみではなく、養われた多様な能力が、互いを認め社会性を育む力となることを生徒に丁寧に伝える必要があります。また、生徒、教員、そして保護者は、そこで養われた多様な能力が土台となり、8の「将来の夢や目標を持っていますか。」に繋がることを意識することが大切です。

【課題2】

8の「将来の夢や目標を持っていますか。」については、昨年度より生徒全体の評価が高まりましたが、生徒全体の肯定的な回答が67%、保護者回答も59%と低く、将来の夢や目標を具体的に描けていない生徒の現状が見えてきます。それに対し、教員の肯定的な回答が90%であり、意識の違いが見られました。教員は、この違いがどこから来ているのか十分に考察していかなければなりません。

その上で、生徒が学習本来の意義や学ぶ楽しさを味わえるように、教員はその指導法を工夫し生

徒自ら前向きに取り組める力の育成を、更に図っていく必要があると考えます。

また、今年度はコロナ禍よりも多くの行事を実施することができ、生徒の活躍の場を増やすことができました。その成果は高く、7の「各行事に積極的に参加していますか。」では肯定的な回答が90%となり、満足している結果がうかがえます。前向きなその姿勢を評価し、来年度に向けて生徒の意欲をどのように引き上げていくか検討していくことが大切です。

【来年度に向けて】

生徒に将来の夢や目標を意識させ、生徒の学習意欲の向上を図る実践を来年度も継続して推進していく必要があります。それには昨年度から取り組んでいる校内研究での実践を土台に、総合的な学習の時間や教科学習の更なる活用を模索し、生徒自ら考え実践できる学習場面を多く設定できるように十分に検討して実践に繋げていきたいと思えます。今後は、行事や総合的な学習の時間の継続的な実践計画を構築し、より効果的なものに改善していく必要があります。

今年度は、学習や行事等の活動について、他校の教員や外部の指導者・関係者の方々から、素直で前向きな取り組みの姿勢を高く評価していただきました。この評価は、生徒の学ぶ姿勢を教師が上手に引き出した結果とも感じます。

教員は、指導力の向上、豊かな発想力、連携体制の強化を図り、教員自身の自己肯定感を高めていくことを常に念頭に置く必要があると考えます。生徒と教員が互いの前向きな姿勢を認め合い、高め合いながら学習意欲の向上を推進していきたいと思えます。

項目2 地域社会で活躍する学校について



【課題1】

生徒の「学校生活は、地域の方々に支えられている」という意識が高いことは例年通りでした。今年度は、多種のボランティア活動ができたため、9の「ボランティア活動に積極的に参加していますか。」について、肯定的な回答が75%以上という結果となりました。特に、3年生では82%に達し、学年が上がるにつれボランティア参加率が高くなりました。

ボランティア活動再開にあたり、今年度は、コロナ禍以前の活動と同様の進行や準備を実施したというわけではありませんでした。以前からの活動を踏襲するのではなく、地域や学校の実態に則した形になるよう常に検討をし、地域との調整を図っていくことが大切だと思えます。

「地域に根ざし、地域の未来を担う学校」という渋谷中学校の基本理念のもと教育活動を行い、それがより定着して生徒の行動力につながるよう、更に力を尽くしていきたいと思えます。

【来年度に向けて】

今年度、コロナ禍以前からのボランティア活動が再開し生徒が意欲的に参加する中で、渋谷中学校でのボランティア活動の流れを再度作り上げる体制が整ってきました。この取り組みを後輩たちに繋げ、幅広く活動できるよう、より活性化していけることを期待します。

今年度も、地域の人を助け感謝された実践報告を聞くことができました。また、積極的にボランティア活動を、多くの関係者が評価していただきました。評価されたことを生徒にフィードバックし、定着した活動だけではなく、自らの判断で地域の活動に貢献できる人間性と社会性を育みたいと思えます。

【課題2】

11の「渋谷の 荘 学習」（総合的な学習の時間）にしっかりと取り組んでいますか。」については、生徒の肯定的な回答が83%となり前向きな学習ができていると思います。教員は、今後も校内研究の充実を図り「渋谷の 荘 学習」（総合的な学習の時間）の体制の構築に努め、より充実した学習ができるように努力する必要があります。

【来年度に向けて】

「渋谷の 荘 学習」（総合的な学習の時間）の計画を、3年間を通してどのように展開してか、今後も研究を重ねていきたいと思っています。また、総合的な学習の時間での実践を進める中で「私にできることは何か。」生徒に考えさせ、意識をもって自ら実践できる活動につなげられるよう、その力の育成に努めたいと思っています。



項目3 さわやかな学校について

【課題】

全体として概ね80%を超えており良好と考えます。1年生が他の学年より低くなっているの
で、上級生を見習い、中学生活の中で徐々に身につけていく傾向であると考えられます。1年生
は、まだその意識と実践力が未熟なため、成長に応じた取り組みが特に必要と感じます。

さわやかな学校となるよう、中学校生活を通して人とのコミュニケーションと人間関係づくりの
構築方法をどのように進めていくか、学年ごとに、計画的に学んでいく必要があります。

【来年度に向けて】

「あいさつ」「言葉づかい」「環境美化」に対する生徒の意識を今後も継続していけるよう取り組
むことが大切です。また、清潔で美しい環境と心温まる人間関係づくりが、落ち着いた学校生活
に繋がることを生徒に意識させていくことも大切です。

私たち教員自らも言葉づかいに注意し、気持ちの良い挨拶を率先して行えるよう今以上に意識
を持ち、実践を続けていきたいと考えます。そして、きめ細やかな指導と交流を通して、生徒と共
にさわやかな学校を作り上げていきたいと思っています。

項目4 安全・安心な学校について



【課題】

15の「先生は、「いじめ」などの問題に対し、早期発見と改善に努めてきていますか。」、
18の「学校では、楽しく生活していますか」の設問に対し、全体で90%以上と肯定的な回答とな
りました。このことから、学校は安心して生活・学習できる環境であるといえる一方、そうではな
いと思う生徒がいるということも再度教員は意識する必要があります。

教員は、楽しくないと答えた生徒や、教員への不信感を抱く生徒の心情を理解するために、
一人一人への丁寧な対応が求められます。学校全体としても、どのような支援をすれば良いか共通理
解を図る必要性があります。教員は、生徒に信頼されるよう、常に生徒の言動や心理状況を把握す

る姿勢を維持し、寄り添うことを大切にしたい支援体制の重要性を意識しなければなりません。

【来年度に向けて】

生徒、保護者にとって安心・安全な学校を私達教員が一丸となり運営していかねばなりません。そのためには、校内研究で活用しているQUアンケートや教育相談などを活かし、学年、学校全体で情報を共有し統一した支援ができるよう、協力体制の強化を今後も図っていく必要があります。

日常から生徒との信頼関係づくりを心がけ、生徒の変化を捉えられるよう、授業、行事、学級指導、部活動等を通して積極的に関わりを持ち、より一層、信頼関係を築いていきたいと思えます。

今後も担任、学年、支援部で、「そのポジションでそれぞれ何ができるか」を確認し連携をさらに高め、チームとしての力の向上を図り、より安心・安全な学校作りに努めていきたいと思えます。



～おわりに～

コロナ禍以前の学校体制が徐々に戻り始めた今年度は、全体として生徒の気持ちも安定し、落ち着いた学校生活が送れたと感じます。また、活気も戻ってきました。これも、家庭や地域の支え、そして生徒の前向きな姿勢の成果と考えます。

より良い学校にするために教員は、今回のアンケートでの課題を真摯に受け止め分析し、今後に向けて検討を行う姿勢を大切にしていきたいと思えます。教員は、良好な学校運営が継続できるように常に緊張感をもって実践し、日々の教育活動をしっかりと積み重ね、さらに信頼されるよう資質向上に努め研鑽を積んでいくことが必要と考えます。



生徒も教員も例年通りをなぞるのではなく、自ら考え解決に導く力がどれだけあるか問われます。今後も渋谷中学校の教育理念の実現をめざし、教員が連携して一丸となり、生徒はもちろん教員も含め、一人一人の個性を尊重し、互いを認め、ふれあいを大切にできる学校にするために力を合わせていきたいと考えています。

今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

